

令和6年度 全国学力・学習状況調査の瑞穂町の結果、分析及び方策等について

I 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（国語・算数・数学）について

1 結果内容

小学校6年生及び中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が令和6年4月18日に行われ、その結果が公表されました。この調査は、児童・生徒の学力や学習状況の把握・分析を通して、教育委員会の取組の成果や課題の検証、改善を図るとともに、学校における教育指導の改善・充実に役立てることを目的として実施されています。

令和5年度の結果と令和6年度の結果の比較（平均正答率）及び全国との差（％）

<小学校第6学年>

	国語			算数		
	全国	町	国との差	全国	町	国との差
5年度	67.4	54.3	-13.1	62.7	48.8	-13.9
6年度	67.8	52.9	-14.9	63.6	50.6	-13.0

<中学校第3学年>

	国語			数学		
	全国	町	国との差	全国	町	国との差
5年度	70.1	61.3	-8.8	51.4	39.3	-12.1
6年度	58.4	50.7	-7.7	53.0	45.0	-8.0

2 傾向

- 国と比較すると平均正答率を下回る結果となっています。全ての調査教科において、8～15ポイント程度下回っています。一方で、令和5年度と比較すると令和6年度は、中学校の国語・数学及び小学校の算数において全国との差が1～4ポイント程度縮っており、授業改善の成果が見られます。
- 小学校国語では、事実と感想、意見との区別が明確ではないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られました。また、中学校国語では、自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られました。記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫した指導を充実させていきます。
- 小学校算数では、図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られました。また、中学校数学では、複数の集団データの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させる指導を行っていきます。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けることができるように指導を充実させていきます。

Ⅱ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（児童・生徒質問紙調査）について

小学校6年生及び中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査と同時に、児童・生徒の学習意欲や生活状況に関する質問紙調査も行われました。

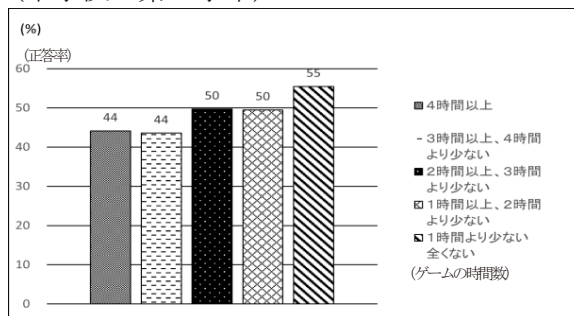
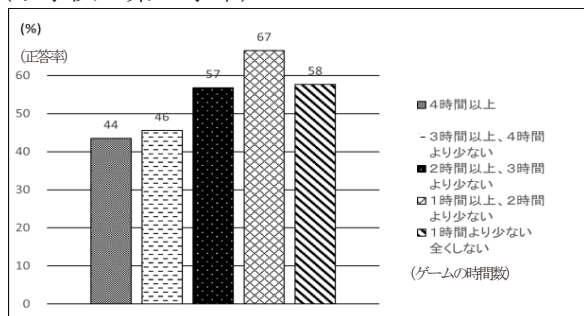
令和6年度 質問紙調査の結果（抜粋）（％）

1 平均正答率と意識調査の相関関係の例

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

（小学校 第6学年）

（中学校 第3学年）



2 質問紙調査の結果のうち、瑞穂町において「課題となる項目」（抜粋）

＜小学校第6学年＞

黄色・・・前回より改善が見られた項目 青色・・・前回より下回った項目

質問事項	選択肢（抜粋）	令和6年度 町	全国	国との差	令和5年度 町	短評
学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	2時間以上	13.4	23.5	-10.1	22.1	1日あたりの勉強時間が、2時間以上の児童の割合が大きく減少し、1時間未満、全くしない児童の割合が増加した。
	1時間以上2時間より少ない	26.1	31.1	-5.0	25.1	
	1時間未満、全くしない	60.6	45.3	15.3	52.8	
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	当てはまる、どちらかといえば、当てはまる	76.5	81.9	-5.4	60.6	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ児童の割合は大きく増加したが、全国平均より下回っている。
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	当てはまる、どちらかといえば、当てはまる	69.3	79.6	-10.3	53.3	自分の考えをまとめる活動を行った児童の割合は、大きく増加したが、全国平均より下回っている。

＜中学校第3学年＞

質問事項	選択肢（抜粋）	令和6年度 町	全国	国との差	令和5年度 町	短評
学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	2時間以上	23.6	31.7	-8.1	25.6	1日あたりの勉強時間が、1時間未満、全くしない生徒の割合が、依然として高い。
	1時間以上2時間より少ない	28.1	30.7	-2.6	26.6	
	1時間未満、全くしない	47.5	35.4	12.1	47.8	
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	当てはまる、どちらかといえば、当てはまる	69.2	80.3	-11.1	69.6	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ生徒の割合はほぼ横ばいで、全国平均より下回っている。
1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	当てはまる、どちらかといえば、当てはまる	62.4	75.4	-13.0	53.2	自分の考えをまとめる活動を行った生徒の割合は、大きく増加したが、全国平均より下回っている。

3 傾向・分析

- 上記のグラフのとおり、1日当たりのテレビゲームの時間が長ければ長いほど、学力調査の正答率の結果が低くなる傾向が見られました。テレビゲームをしてよい時間を決めるなどして、学習時間を確保することも大切です。
- 児童・生徒の学力調査と意識調査の相関関係を分析すると、授業時間以外に「1時間以上勉強をする」と「1時間未満しか勉強していない」では、学力調査の結果で小学校で4ポイント、中学校で11ポイントの差が生じています。ご家庭でも学習時間の確保していただくようお願いします。